

うきたむ

第3号

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

1994. 6. 1

(山形県東置賜郡高島町大字安久津2117 TEL 0238-52-2585)



整備が進む「まほろば^{いにしえ}古の里の歴史公園」

いま求められているもの

本館運営協議会副会長

吉野 智雄

うきたむ風土記の丘 考古資料館は、開設して間もないが、自然の美しさと静けさに見事に調和し、歴史の重みを一際感じさせる景観をかもしだしております。館内に一步足を踏み入れると、本県はもとより全国的な考古学の業績を結集した含蓄のある展示が展開されており、研究の積み重ねの重大さをひしひしと感じさせられます。

それにつけても、最近の考古学の進展には目を見張るものがあります。先だって、県内のある発掘現場からの報告の中で、出土した十数万年前の石器に付着していた脂肪酸を分析したところ、ナウマンゾウのものだったことが判明している、という記事に直面し、たいへんな衝撃をうけました。分析科学の進歩もさることながら、脂肪酸の付着した石器を発掘し、それを研究素材として価値づけ、今日まで保存できた保存科学の成果であり、それに研究体制の組織化が見事に機能しあつて、注目すべき結論を導き出すことができたのでしよう。

改めて最先端をいく発掘・保管技術の開発や学際領域を組み込んだ研究体制の確立・スタッフの養成等は、いつも真しに検討しておくべき重大な課題であります。その対応如何では、資料館等の存在すら危惧される事態が予測されますので、これらのことを踏まえた百年のビジョンを設定し、個性的な資料館に成長する運営を期待したいものです。

巨大住居のナゾにせまる

一の坂遺跡と巨大住居

第二回企画展開催

五月一日から七月末日まで第二回企画展「一の坂遺跡と巨大住居」が開かれている。最近、縄文文化がさかえた東北・北陸の各地から、ふつうの住居跡とは、おもむきを異にする大型の住居が発掘されている。共同作業場、あるいは祭礼の場などいろいろの説があるが、そのナゾにせまろうという企画である。

この企画展は、「最初に発見された巨大住居」「県内最古の巨大住居」「一の坂遺跡のロングハウス」「東根市小林遺跡」「おしゃれてグルメな縄文人」の五つのテーマで構成されている。

最初に発見された巨大住居

一九七三年に富山県不動堂遺跡で、太い柱穴をもつ長さ一七メートル、幅八メートルの大型堅穴住居跡が発掘された。内部には一直線に並んで四か所に炉跡があり、直径・深さともに一メートルをこえる大きな柱穴が一四個発見された。

時期は縄文中期前半で、およそ五千年前。冬季に秋に採集した木の实などをアクヌキしたりする共同作業の場とする説がある。

最古の巨大住居

米沢市成島の窪平遺跡から一五棟の堅穴住居跡とともに長辺二四・六メートル、短辺四・五メートルの長方形の大型住居が発掘された。二基の住居跡が一つにまとめられ拡張されて大型住居につくり変えられたものらしい。

出土した土器は、縄文を多く用いた縄文前期室浜式といわれるもので、全国的にも最古の巨大住居である。

一の坂遺跡のロングハウス

一九八九年に米沢市の西部矢来の台地から長さ四三・五メートル、幅四メートル前後の細長い巨大な堅穴が発掘され、地面をくぼめた炉跡が六か所で見つかった。

その後、近くから一〇棟の堅穴住居跡が軒を接して連なる連房式堅穴住居群が発掘されて話題をよんだ。

この度、県立高島高校美術クラブに依頼して手塚孝氏の原図にもとづき「一の坂ムラの春」と「窪平遺跡の大型住居」の復元想像図を描いていた

だき正面に掲げている。

ロングハウス内より出土した石銚・両尖七首・石匙・石鏃・玉類

なども展示され、唯一の完形土器も並べられている。ロングハウスは石器製作の工場、連房式住居はアパートだとする説が有力である。

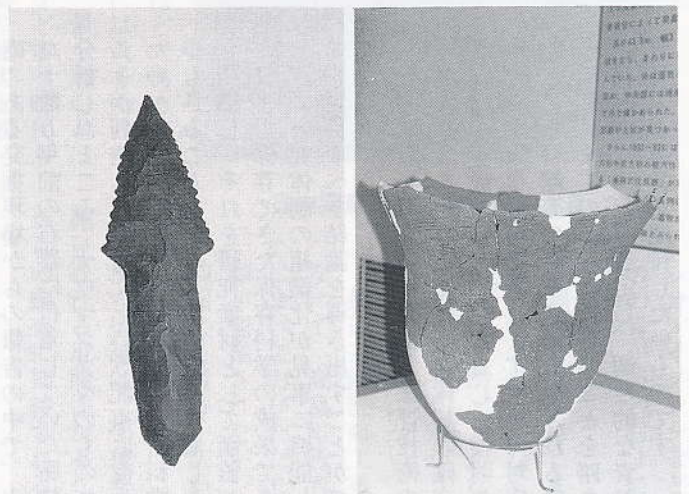
東根・小林遺跡の巨大住居

東根市街の北、大森山工業団地敷地内からも縄文前期中頃の大型住居跡が発掘され、附近から出土した土器や石器類が展示されている。

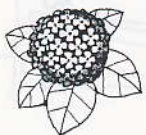
縄文時代観の転換

これらの展示物は、米沢市教育委員会、富山県と山形県埋蔵

文化財センター、東根市教育委員会などより借用いただいたものである。貧しく野ばんで文化が低いという縄文時代観は、巨大住居の存在からも大きな転換が必要とされる。ともかく日本の基層文化である縄文時代の社会組織や集団を考える上で、いろいろの問題を投げかける。

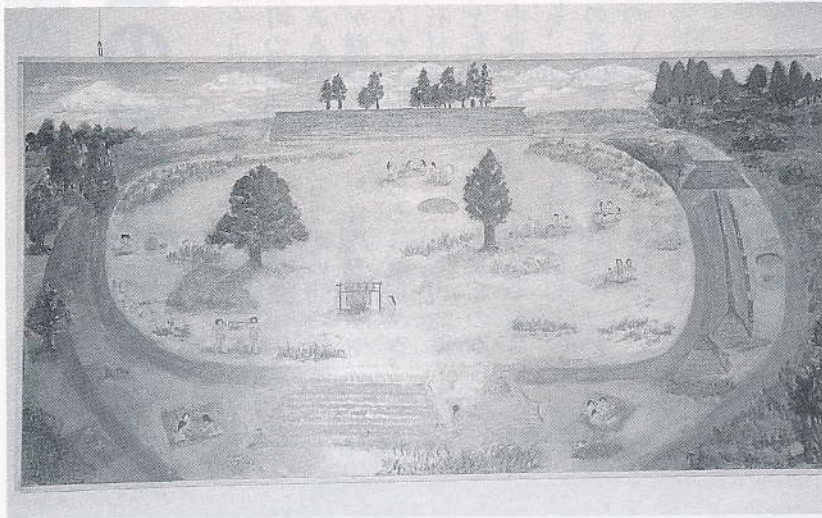


一の坂遺跡出土の両尖七首と大型深鉢



“一の坂ムラの春”など

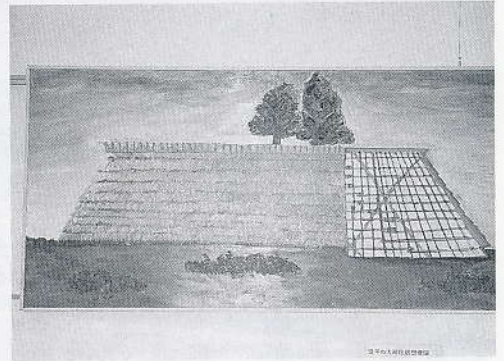
県立高畠高校美術クラブが制作



一の坂ムラの春

この度の第二回企画展「一の坂遺跡と巨大住居」の会場にひとときわ美しい色どりで、大きな油絵二点が正面にかかげられている。

県立高畠高等学校（堀江徹美校長）美術クラブの製作にかかるもので、約二週間で大作を仕上げた。指導にあたったのは、同校美術担当で、クラブ顧問の縮久美子教諭。原画は米沢市教委の手塚孝氏によるもので、無彩色の原画をもとに描きあげたものである。一点は「一の坂ムラの春」と題して六五



窪平の大型住居

〇〇年前のロングハウスや連房式住居を含む一の坂遺跡の当時のようすを復元想像して表わしたものである。

もう一点は、米沢市成島の窪平遺跡の大型住居の図で、最古の大型住居のもともとのようすがよくわかるように表現されている。

出土した資料にもとずいて縄文時代のイメージがよく表わされている。訪れる人びとも「ああ、こんなようすだったのか」と大むかしのムラや家のしくみ、人びとのくらしぶりを目のあたりにして仲々の好評である。

今後、資料館にながく保管して有効に活用していきたいと思っている。

第三回企画展は…

「発掘された中世」

今年度も多彩な催しもの

さる三月二十五日に開かれた本館の第三回運営協議会において、本年度の事業計画が承認決定された。

第二回企画展「一の坂遺跡と

・「縄文月見の宴」 九月二〇日。
・第三回企画展「発掘された中世」 一〇月一日～一二月三日。

巨大住居」の後には、一〇月一日より一二月末日まで「発掘された中世」のテーマで、中世のまじないや信仰の世界にスポットをあてた展示を行う予定で準備をすすめている。今年度の主な事業計画は次の通りである。

・第三回特別講演会 「平泉政権と出羽国」 東北大学教授 入間田宣夫氏（予定） 一〇月一日。

・第二回企画展「一の坂遺跡と巨大住居」 五月一日～七月三十一日。

・シンポジウム「祈りと戦いの中世」 一〇月一日～一日。

・第二回特別講演会 「東北・北陸の巨大住居が意味するもの」 秋田県埋蔵文化財センター所長 富樫泰時氏 六月四日（土）午後一時半より。

・収蔵品展 一二月六日～四月三〇日。
・縄文手づくり教室 一月二九日。

・古代米田植え・さなぶり 六月五日 午後一時より
・土器つくり教室。
講師 水野哲氏 七月三日及び七月三十一日。
・収蔵品展 八月四日～九月三日。

・置賜地区埋蔵文化財発掘調査報告会 二月一八日
その他館報三号（六月）、館報四号（一〇月）、会報二号（三月）など発刊の予定。

高畠の洞穴遺跡群

置賜盆地の北東部を占め、奥羽山脈に接する高畠町の北部や東部は凝灰岩地帯である。凝灰岩は主として火山灰が凝固してできた岩石で、やわらかく加工しやすい。古くから石材として利用され、この石材を利用した横穴式石室の古墳や中世の石造文化財も多く分布する。

石は深い関係があった。山麓や山地には、水や風によるながい間の侵蝕によってできた自然の岩陰や洞穴がいたるところにみられる。

これらの岩陰や洞穴が大むかしの人びとのくらしの場であることがはつきりしたのは一九五五年(昭30)の日向洞窟の発掘調査以後のことである。そのもつとも下にたい積された土層より、縄文時代のものと古い一万年以前にさかのぼる土器片や石器・動物の骨や貝類などが発見されたのである。三年にわたるこの調査は、山形新聞社の後援によって山形大学・東京大学・



国史跡一の沢洞穴

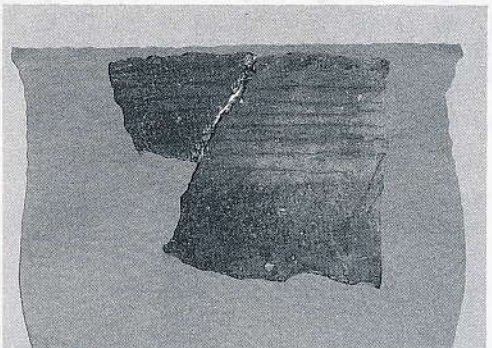
町文化財関係の方々などの協力で行われ、山内清男・鈴木尚・柏倉亮吉など著名な考古学や人類学の学者がこの調査の指導にあたられた。

この調査がきっかけとなって丘陵の山腹などの凝灰岩地帯で、一の沢・大立・尻子・火箱岩・神立沢・観音岩・加茂山などの洞窟・岩陰が発見調査され、旧石器時代から縄文時代初頭はもとより奈良時代まで、居住や貯蔵・避難・キャンプ・墓など多岐にわたって利用されていることがわかった。

緑の樹々に囲まれた中に、そば立っている岩壁、二層三層につらなる洞穴、回廊のように岩の間をめぐる通路は、実にみごとに景観であり、そのあたりに縄文人の姿がほうふつとうかんでくる思いである。

最古の土器が発見された日向大立・火箱岩・一の沢など四つの洞穴・岩陰は、その後大へんだいじな遺跡であることから周囲の自然環境とともに国により史跡に指定された。

もつとも多くの遺物が発見された日向洞穴遺跡は、三〇メートルほどの凝灰岩の岩壁が立っている南斜面に、二つの洞穴と二つの岩陰よりなる。第一洞は入口の高さ一・五メートル、奥



日向洞窟出土の微隆起文土器

行一〇メートルほどである。内部の壁面天井部には火をたいた跡が認められる。最上層からは、土師器や須恵器など古墳時代から平安時代の土器や弥生土器・縄文晩期の土器や人骨なども出土した。その下層からは七・八千年前の縄文早期の土器片が発見され、最下層の岩盤上より微隆起文、爪形文、縄線文など一万年以上の縄文草創期の土器が発見された。

しかもそれはカワシンジュガイ・カワタニシ・ニホンシジミ・サケなど魚貝類、マガモ・ヤマドリなどの鳥類、エチゴウサギ・タヌキ・ツキノワグマ・カモシカ・イノシシなどのけもの骨がいっしょに発見された。



最近道路改修工事にもなって、高畠町教育委員会によっておびただしい石器類が発掘されたが、洞窟の前面にも遺跡が広範にひろがることわかった。これに類する洞穴遺跡は、今後も新たに発見される可能性があり、これからの調査に期待される。